

報道関係者 各位

2015年7月6日
国立大学法人 東京農工大学

平成28年度東京農工大学農学部第3年次編入学・共同獣医学科学士編入学における入学試験問題の出題ミスについて

平成27年7月2日(木)に実施しました東京農工大学農学部第3年次編入学・共同獣医学科学士編入学の「生物学」の問題において出題ミスが判明いたしましたので、下記のとおり公表します。

受験者の皆様をはじめ関係者の皆様に多大なご迷惑をお掛けしたことを心からお詫び申し上げます。今後、このようなことがないよう、再発防止に万全を期する所存でございます。

なお、平成28年度東京農工大学農学部第3年次編入学・共同獣医学科学士編入学の試験は、当初の日程どおり実施され、予定どおり7月10日(金)に合格発表することとしております。

記

1. 出題ミスの内容

「生物学」の大問 [2] の文中の下線部(b)について、本来は「(b)キアズマが形成される。」と記載すべきところ、誤って「(b)テロメアが形成される。」と記載してしまったため、問題 [5] において、正答を導くことができなくなりました。

2. 対象となる受験者数

農学部第3年次編入学受験者9名及び共同獣医学科学士編入学受験者7名の合計16名です。

3. 出題ミス発見の経緯

採点終了後の再確認時に発見しました。

4. 出題ミスへの対応

該当の大問 [2] 中、問題 [5] を全員正解として扱いました。

5. 今後の対応策

問題作成及びチェック体制のさらなる整備を行い、出題ミスの防止に努めてまいります。

添付資料 平成28年度東京農工大学農学部第3年次編入学・共同獣医学科学士編入学学生募集要項
抜粋、当該試験問題抜粋

◆ 本件に関する問い合わせ◆

東京農工大学学務部入試課長 高木 学

TEL : 042-367-5543 / FAX : 042-367-5585

平成28年度

東京農工大学農学部

第3年次編入学

共同獣医学科学士編入学

学生募集要項

(抜粋)

東京農工大学農学部

農学部第3年次編入学生募集要項

1. 趣 旨

東京農工大学農学部（生物生産学科、応用生物科学科、環境資源科学科、地域生態システム学科）では、近年の社会及び産業構造の変化に伴い、広く社会に門戸を開くことを目的として、学士号取得者、大学に一定期間以上在学した者、短期大学及び高等専門学校の卒業生及び卒業予定者について、本学部の専門教育を履修する機会を提供する編入学制度を設けています。

本学における勉学に熱意を持つ皆さんの応募を期待します。

なお、共同獣医学科に編入学を志望する者は、「農学部共同獣医学科学士編入学生募集要項（P.5以降参照）」により出願してください。

2. 募集人員及び募集学科アドミッション・ポリシー

(1) 募集人員

学 部	学 科	募集人員
農 学 部	生 物 生 産 学 科	各学科 若干名
	応 用 生 物 科 学 科	
	環 境 資 源 科 学 科	
	地 域 生 態 シ ス テ ム 学 科	

(2) 募集学科アドミッション・ポリシー

募集学科	募 集 学 科 ア ド ミ ッ シ ョ ン ・ ポ リ シ ー
生物生産学 科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生物生産学科は、日本および世界の農業を広く深く理解するとともに、農業に関わる高度な専門的知識を身につけ、生産環境、植物生産、動物生産および農業経営経済の分野において優れた基礎的・応用的能力を有する、広い視野に立つ人材を養成することを目的とする。このような目的を持つ教育課程に真摯に取り組むことができる、次のような者を求める。 2. 人類が直面する食料・農業・農村問題、持続的農業等の問題に関心があり、農業に関わる高度な専門的知識を身につけたいという意欲を持つ者。 3. 生物学等の理科系科目ならびに国語・数学・英語等の基礎科目に十分な学力を有している者。
応用生物科学 科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 応用生物科学科は、分子生命化学、生物機能化学、生物制御学などのバイオサイエンス・バイオテクノロジーの分野において優れた基礎的・応用的能力を有する、広い視野に立つ人材を養成することを目的にする。このような目的を持つ教育課程に真摯に取り組むことができる、次のような者を求める。 2. バイオサイエンス・バイオテクノロジーの分野に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的、国際的に貢献したいという意欲を持つ者。 3. 生物学・化学等の理科系科目ならびに国語・数学・英語等の基礎科目に十分な学力を有している者。

5. 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査・英語（TOEIC等の成績）・成績証明書・口述試験を総合して選考します。

(1) 学力検査科目

学 科 名	受験を要する科目	出 題 範 囲
生 物 生 産 学 科	化学・生物学の2科目	大学教養程度
応 用 生 物 科 学 科		
環 境 資 源 科 学 科		
地 域 生 態 シ ス テ ム 学 科		

(2) 試験日時

平成27年7月2日(木)	9：30	10：00～12：00	13：30～
	集合時間	学力検査	口述試験

(3) 試験場所

農学部（府中キャンパス）において実施します。なお、試験の詳細は受験票送付時に同封します。

6. その他

合格発表、入学手続、注意事項及び問い合わせ先等はP. 8～の「両編入学試験における共通事項」を参照して下さい。

農学部共同獣医学科学士編入学生募集要項

1. 趣 旨

近年の社会の発展に伴い、獣医学は従来の境界を超え広く関連分野の学問領域と融合しつつあります。即ち、基礎及び臨床獣医学に加えて野生動物・環境保護の分野、さらに医学・薬学や生命科学などの広範囲な分野に及んでいます。獣医師の職域が拡大される一方、高度な専門性を備えた人材が社会的に要請されており、その需要も高くなっています。また、優れた人間性を有する獣医師の育成が要望されています。

本入試制度は、これらの社会的要請に呼応して、畜産関連学部はもとより、理工系学部、文科系学部を卒業した者であっても、その分野において相当の知識を有し、優れた人間性と将来性豊かな者に獣医師として活躍する道を開くために行うものです。

2. 募集人員、編入学年次及びアドミッション・ポリシー

(1) 募集人員

学 部	学 科	募集人員
農学部	共同獣医学科	若干名

(2) 編入学年次

原則として2年次に編入とします。

ただし、6年制の医学・薬学・歯学系大学及び学部を卒業したもの（見込みを含む）は3年次への編入となります。

(3) アドミッション・ポリシー

1. 獣医師は人類と動物の健康と福祉に貢献するという理念に基づき、本共同獣医学科は、高度獣医療の提供、人類の健康と食の安全、生命科学研究の発展に活躍できる国際的な視野を持つ人材を養成することを設置基盤としている。そのために、本共同獣医学科では、次の能力・資質を備えた者を国内外から求める。
2. 獣医師としての目標を持ち、獣医学の発展に貢献しようとする意欲を持ち、自然や生命現象に関心を持ち、それを探求しようとする意欲を持つ者。
3. 獣医師として、国際的な交流・協力を推進し、世界に学び世界に貢献しようとする意欲を持ち、常に自己を啓発し、実行力に優れ、社会で貢献しようとする意欲および課題を探求し、問題を解決する意欲を持つ者。

⑨	入学検定料納付確認票	(本学所定様式) 志望学科・氏名を記入してください。
⑩	連絡受信シール	(本学所定様式) 合格通知書及び入学手続き書類を受け取る住所、氏名を記入してください。
⑪	返信用封筒 (受験票送付用)	長形3号の定型封筒に、受験票を受け取る住所、氏名を明記し、362円の郵便切手(速達)をはり付けてください。 ※6月25日(木)までに受験票が届かない場合は、府中地区事務部学生支援室教務第二係にご連絡ください。
⑫	その他	外国人志願者にあつては、住民票の写しを提出してください。

注) 提出済みの出願書類等(検定料を含む)は、返却しません。(英語能力に関する証明書を除く。)

(2) 出願期間及び提出先

次の期間中に、書留速達で郵送により提出されたもののみを受理します。

出願期間：平成27年6月11日(木)から6月18日(木)まで(必着)

提出先：東京農工大学府中地区事務部学生支援室教務第二係

〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8

5. 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査・英語(TOEIC等の成績)・成績証明書・口述試験を総合して選考します。

(1) 学力検査科目

受験を要する科目	出題範囲
化学・生物学の2科目	大学教養程度

(2) 試験日時

平成27年7月2日(木)	9:30	10:00~12:00	13:30~
	集合時間	学力検査	口述試験

(3) 試験場所

農学部(府中キャンパス)において実施します。なお、試験の詳細は受験票送付時に同封します。

6. その他

合格発表、入学手続、注意事項及び問い合わせ先等はP.8~の「両編入学試験における共通事項」を参照して下さい。

入 試 問 題

【生 物 学】

3 頁のうち 2

② 以下の文章を読んで、[1] ~ [3] の問いに答えよ。

動物細胞の分裂と分裂の間は、細胞は間期にある。間期は G1 期、①期、G2 期より成り、細胞は間期を通して成長する。この間①期では DNA が合成される。細胞の分裂は有糸分裂と②に分けられるがこの有糸分裂の過程が③期である。③期における過程の概略は、前期において核中の④が消失し、強く凝縮した染色体が生じる。また紡錘体が作られる。前中期には染色体を包む⑤が消失し、⑥より伸びた微小管が染色体上の^(a)セントロメアにある⑦に結合する。中期になると⑥は細胞の両端に位置し、染色体は⑧面に集合する。後期になると染色体は細胞の両端に向かって移動を始める。終期では④や⑤の再生等が行われる。その後、②が行われて細胞の分裂が終了し、2 つの娘細胞ができる。減数分裂においては 2 回の細胞分裂が連続して起こるが、第一減数分裂において染色体の腕部の接着と交差による^(b)テロメアが形成される。第一減数分裂終了後、直ちに第二減数分裂が起こり、最終的に配偶子を生じる。

[1] 文中①から⑧にあてはまる適切な語句を解答欄に答えよ。

[2] 化合物サイトカラシンはアクチンの重合を阻害する。動物細胞にサイトカラシンを作用させた場合、細胞周期中どの過程が阻害されるかを、次の 1 から 5 の中から最も適切なものを一つ選び番号で答えよ。

1. 紡錘糸の形成
2. 染色体の凝縮
3. DNA の合成
4. セントロメアの形成
5. 分裂溝の形成

[3] 細胞周期における G1 期の二倍体細胞の DNA 量を x とした場合、この細胞が減数分裂を起こした際の第一減数分裂中期の DNA 量はどのように表されるかを、次の 1 から 5 の中から最も適切なものを一つ選び番号で答えよ。

1. $0.25x$
2. $0.5x$
3. x
4. $2x$
5. $4x$

[4] 染色体には下線部 (a) のほかにテロメアと呼ばれる部位が存在する。テロメアとは何か、および細胞分裂におけるテロメアの役割を合計 150 字以内で答えよ。

[5] 下線部 (b) について、キアズマの形成が第一減数分裂で起こり、第二減数分裂では起こらない理由を 40 字以内で答えよ。